



Biz Com

Contents

- Business Now!
伊藤 穰一氏インタビュー 1-2
- 松井教授インタビュー/7期生紹介 3
- 新入生アンケート 4-5
- 研究会紹介/BD立教会/ブログ分析 6-7
- 新任教授紹介/春合宿報告/編集後記 8



株式会社デジタルガレージ
共同創業者/取締役

いとう じょういち

伊藤 穰一氏

大切なのは「創造と行動の自由」 ～好きな人たちとアイデアを実現してハッピーに～

誰もがインターネットに接続して、さまざまな情報を得ることができる時代になっています。PCでブラウザを起動したとき、あなたは最初にどのサイトを開くでしょうか？インターネットへの入り口として、ポータルサイトを利用する方がほとんどだと思います。ポータルサイトの中でも日本の草分け的な存在として、知られているのが「infoseek」です。

伊藤氏は、1999年に（株）インフォシークを設立し、日本でのインターネットビジネスの旗手として活躍してこられました。また、日本のITベンチャーキャピタリストとしても注目され、2000年には、ビジネスウィーク誌にて「アジアにおける最も影響力のある50人」に選ばれています。

その伊藤氏に、次々と新しい事業にたずさわっていくパワーの源についてお話を伺いました。

（記事：小野陽子、加藤彰、チェ・ハンラ、米岡英治、龍崎冷華）

Business Now!

見たい、知りたい、聞きたい、会いたい！ 話題のキーマンをご紹介します！



大胆さが成功への原動力を生む

（株）デジタルガレージ共同創業者/取締役をはじめ、（株）ネオテニー CEO など主なものだけでも14もの企業や団体の要職に就き、起業家としても知られている伊藤氏に、初めて起業しようと考えた時のことを聞いてみました。

「アメリカの大学を中退し、日本へ帰国した21歳頃に、日本の企業にグループウェアの販売や、コンピュータやインターネットのことについてアドバイスするコンサルティング的な仕事をしようと考えました。ただこれを実行し、契約を得るためには会社組織である必要があり、そのために会社を設立するのが最初です。その後もいくつか事業と会社を興しましたがうまく軌道に乗せられず、初めて成功するまでに6つくらいの会社をダメにしました。」

当時の伊藤氏は、日本語もたどどしく、経営に関する知識どころか、賃貸物件には敷金が必要であることなどの一般常識すら知らなかったそうですが、実践を通じてそれらを少しずつ身につけていったといいます。そのような状態で事業をするということに不安や心配はなかったのが尋ねたところ、シカゴ在住時代にディスクジョッキーをやっていたので、ダメになったらまた戻れば良いと考えていた

とか。実際には、資金不足に陥ったり、借入金の返済などの苦勞もあったものの、若さという武器があれば乗り越えられると考えていたそうです。その大胆さや失敗を恐れぬチャレンジ精神が、成功へと導いてくれる原動力となったのではないのでしょうか。

アイデアを実現化するエンジェル投資

数多くのアイデアを事業として具体化してきた伊藤氏に、これまでに手がけた仕事の中で一番面白かったものは何だったか尋ねてみました。

「一番面白いのは、今やっているエンジェル投資です。経営の知識も乏しく、資金にも窮している会社がありました。が、1年ぐらいかけて経営者にいろいろなアドバイスをを行ったところ、事業も軌道に乗り、他の投資家も呼び込むことができ、最終的にその会社を180億円で売却することができました。私が好きなのは、ビジネスモデルも確立していないようなところを手伝うこと。一番クリエイティブ性を要求されるのがその時点ですから。」

まだアイデア段階で具体化していないものを、ビジネスとして確立させるまでのプロセスが、変化に富んで一番楽しいのだといいます。伊藤氏は投資に対するリターンより、自分自身が楽しむということを大切な要素の一つとして考えています。リターンを求めるのならば、

上場前や黒字化してから参加の方が当然リスクも少ないでしょうが、そこまで成長した会社は変化が乏しくあまり興味がわかないように見受けられました。これは、伊藤氏自身がいくつもの事業に挑戦した経験を面白さとして感じているからでしょう。

人と人をつないでハッピーに

伊藤氏の素晴らしいところは、まず自分の心に素直でナチュラルなところ。これをしたらいけないのではないかと、こうしなくてはいけないのではないかと、というような縛りを一切感じないところに驚かされます。だから、アイデアが次から次へ止めどなく湧き出るのでしょ。それを形にすることを通じて、「自分の大切な人たちがハッピーになればいい。そうすることで、結果、自分がハッピーになれる」といういたってシンプル、かつ自分に正直な生き方を実践しています。

「好きな人たちと変化のある活動をしたい。自分の仕事は、人の人とのつながりを創っていくこと。一日何十人も人と人をつなぐ。それが一番ハッピー。」

自分とフィーリングの合う人としか仕事をしない、そして、伊藤氏にとって「面白い人」としか仕事をしないといいます。

伊藤氏にとっての「面白い人」とは「基本